

第1学年英語科 学習構想案

日時 令和2年11月6日(金) 第5校時

場所 1年2組教室

指導者 教諭 森下千和美

ALT Tiffany Chin

1 単元構想

単元名	「Unit 7 ブラジルから来たサッカーコーチ」(東京書籍 New Horizon English Course 1)		
単元の目標	(1) 自分の好きな人物について、事実や自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝え合うことができる。 [知識及び技能] (2) ALTの先生などに伝えるために、自分の好きな人物について、事実や自分の考えや気持ちを整理して伝え合うことができる。 [思考力、判断力、表現力等] (3) 相手に配慮しながら、英語を用いて自分の好きな人物について伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	【話すこと [やり取り]】イ ・ Who, What + 名詞, Which などの疑問詞を用いた文の構造を理解している。 ・ 自分の好きな人物について事実や自分の考え、気持ちを整理して、Who, What + 名詞, Which などの簡単な語句や文を用いて尋ねたり、伝えたりするために必要な技能を身に付けている。	【話すこと [やり取り]】イ ・ ALTに、お互いのことをよく知るために、自分の好きな人物について、事実や自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。	【話すこと [やり取り]】イ ・ ALTに、お互いのことをよく知るために、自分の好きな人物について、事実や自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合おうとしている。
単元終了時の生徒の姿(単元の目標の姿・期待される姿)			
お互いのことをよく知るために、相手に配慮しながら、自分の興味のある人物などについて、生き生きと紹介したり、紹介された内容の中で関連性のある次の話題へと更に対話を発展させたりすることができる生徒			
単元を通じた学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方	
ALTの先生などに、自分の好きな人物について、相手にも好きになってもらうために伝え合おう。		・ 話し手は、自分の好きな人物について相手に興味をもってもらうために、話し方や内容、表現方法を工夫すること。 ・ 聞き手は、相手の話をしっかりと聞く中で、質問をしたり、自分の考えを述べたりして、更に対話を発展させていこうとすること。	
指導計画と評価計画(8時間取扱い、本時1/8)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	2 本時 1/2	○ 単元の目標を理解する。 ○ Who を用いて、相手の好きな人物について尋ねたり、自分の好きな人物について説明したりする。 ○ 自己目標を設定する。 ○ 教科書の本文の内容を理解する。	【知識・技能】【思考・判断・表現】(ワークシート、行動観察)
二	2	○ What + 名詞の疑問文を使って尋ねたり、答えたりする。What time を用いて時刻を尋ねたり、時刻を言ったりする。 ○ 教科書の本文の内容を理解する。	【知識・技能】【思考・判断・表現】(ワークシート、行動観察)
三	2	○ Which を用いて、「どちらが〜か?」ということを探ねたり、質問に答えたりする。 ○ 教科書の本文の内容を理解する。	【知識・技能】【思考・判断・表現】(ワークシート、行動観察)
四	1	○ 単元テストをする。	★【知識・技能】(テスト) Who, What + 名詞, Which などの疑問詞を用いた質問の仕方や答え方について理解している。
後日	1	○ パフォーマンステストを行う。 ALTを相手に対話を行う。	★【知識・技能】(テスト) Who, What + 名詞, Which などの疑問詞を用いて尋ねたり、それに対して事実や自分の気持ちなどを伝えたりするために必要な技能を身に付けている。 ★【思考・判断・表現】 お互いのことをよく知るために、自分の好きな人物について、事実や自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝え合っている。 ★【主体的に取り組む態度】 お互いのことをよく知るために、Who, What + 名詞, Which などの疑問詞を用いたり、事実や自分の気持ちなどを整理し簡単な語句や文を用いたりして伝え合おうとしている。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所（内容、指導事項等）

中学校学習指導要領 2内容

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

エ 文、文構造及び文法事項

 b 疑問文のうち、助動詞（will, may など）で始まるものや or を含むもの、疑問詞（which, whose）で始まるもの

〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

 ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

(3) 言語及び言語の働きに関する事項

ア 聞くこと

 (エ) 友だちや家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話、説明などを聞いて概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。

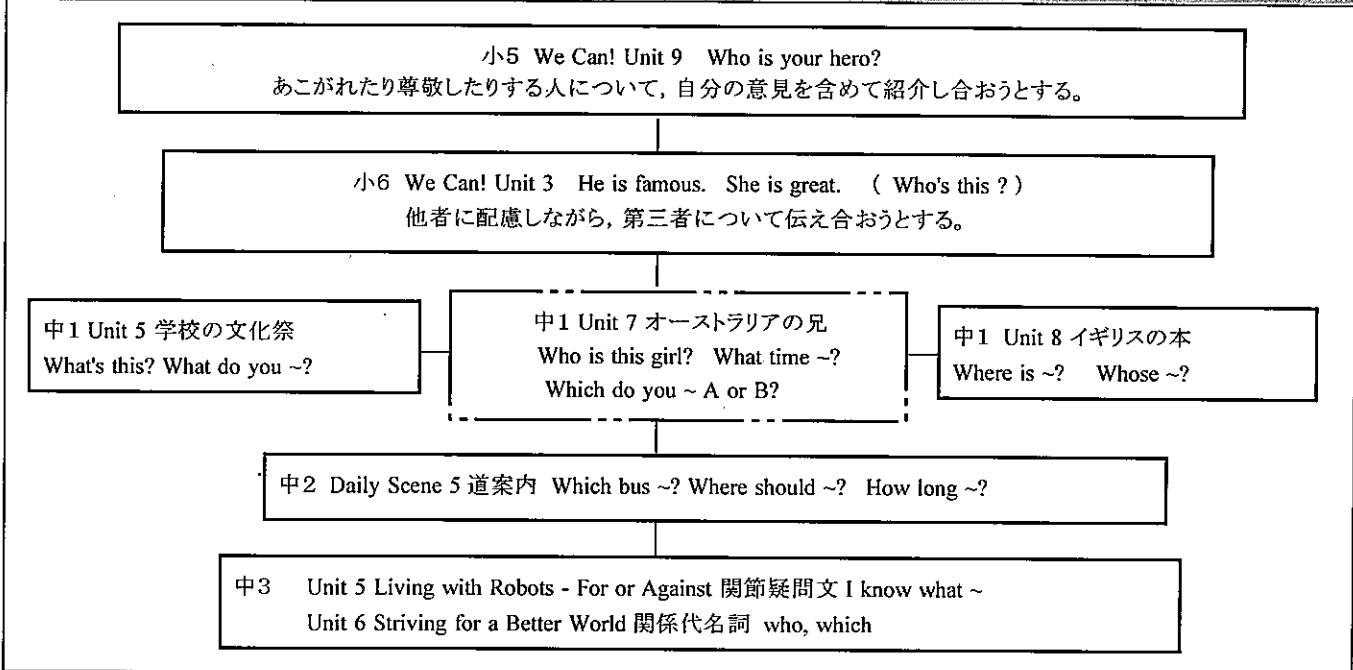
エ 話すこと〔やり取り〕

 (イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。

教材・題材等の価値

本単元は、主人公の光太がブラジル人のサッカーコーチ、パウロと対話をする中で、パウロの娘やブラジルの現地時間、生活の様子などについて知っていく話である。知らない人物やもの、ことなどについて尋ねたり、自分が知っていることを相手に詳しく説明したりする過程で、既習の文法事項を実際の対話の場面で使えるという実感をもたせることができる。また、相手の話に注目し、更に質問したり答えたりするなどの対話を続けることで、即興でやり取りする力やコミュニケーション力を高められることが期待できる。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況

レディネステスト(調査日令和2年10月22日 23人)

①適語選択

	問題	正答数	誤答例
1	I (am / is / are) a student.	23人	
2	Mr.Oka (am / is / are) our teacher.	21人	are 2人
3	Mai and Ken (am / is / are) good friends.	15人	is 8人
4	(Do / Does / Is) your father a doctor?	7人	Does 16人
5	Keiko (play / plays) the piano really well.	18人	play 5人
6	He (don't / doesn't / isn't) want a dog.	18人	don't 4人 isn't 1人

②並べ替え

	問題	正答数	誤答例
1	What do you usually have for breakfast?	16人	usually / for の位置 7人
2	What's your favorite subject?	22人	your の位置 1人
3	I like her curry.	15人	I her like curry 8人

③英作文

	問題	正答数	誤答例
1	Ms.Uemura lives in Hitoyoshi.	14人	Ms.Uemura live in Hitoyoshi. 9人
2	He speaks English very well.	15人	He speak English very well. 8人
3	She sometimes teaches Japanese.	13人	often/usually 7人 teach / teaches 3人

■本単元の学習に関する意識の状況

1	英語の授業は好きですか。 好き 10人 まままあ思う 21人 あまり思わない 2人 嫌い 0人
2	英語の授業で好きな活動はどれですか。 話す 7人 発表 3人 聞く 2人 書く 5人 読む 6人
3	英語の学習を通して何ができるようにになりたいですか。 ・話せる 14人 ・発表できる 0人 ・文章を書ける 4人 ・文章を読める 5人
4	単元のゴールに向かって毎時間の「めあて」を達成できるように積極的に授業に取り組んでいますか。 ・思う 6人 ・まままあ思う 15人 ・あまり思わない 2人 ・思わない 0人
5	英語の授業の中でわからないことがあったときや、困ったときはどのようにして解決していますか。(複数回答可) ・先生にたずねる 16人 ・友だちにたずねる 16人 ・辞書や教科書、インターネットを使う 18人

■考察

レディネステストの結果から、固有名詞が複数ある場合の be 動詞の選択や、be 動詞や一般動詞、助動詞 does、三単現の s/es の使い分けなどの定着が不十分であることが分かる。この単元の学習では、それらを正しく使い分けながら対話することを目標としているため、再度定着するための取組が必要である。

また、意識調査の結果から、ほとんどの生徒が英語の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。

毎回の宿題の提出率はほぼ100%であり、小テストや単元テスト、パフォーマンステスト等に向かう姿勢にも積極性が見られ、これからの伸びが期待できる。

3 指導に当たっての留意点

(1) 研究テーマとの関連

【研究テーマ】 主体的に学び合う児童・生徒の育成を目指した授業の創造
～「主体的・対話的で深い学び」を支える ICT 活用を通して～

視点1 課題設定の工夫

○ 単元を通した学習課題の工夫

・単元のゴールに向かって「ALT の先生などに、自分の好きな人物について、相手にも好きになってもらうために伝え合おう。」と設定し、毎時間できるようにすることは何かを意識し、学習の見直しをつけさせる。

○ 問いを引き出す工夫

・自分の好きな人物やもの、ことを、相手に興味をもってもらえるように説明したり、対話を膨らませたりするためにはどのような表現方法があるかを考えさせる。

視点2 対話的な学びの充実

○ 思考・表現ツール等の活用

・表現方法のわからない語や文に関しては、話し合わせたり教科書等を活用させたりする。

・対話をするための手立てとして、簡単なメモや参考となるものを準備させる。

・学習への意欲を高めたり、コミュニケーションに必要な基本的事項を習得したりするために、ICT を効果的に活用する。

・ペア、グループ、全体など、学習形態を工夫したり、相手を替えてやり取りをしたりなどのスモールステップを踏ませ、意欲や自信をもって活動できるようにする。

・中間指導を行うことで、よい面や課題を意識させ、よりよいやり取りへとつなげる。

視点3 評価・振り返りの工夫

○ つなげる工夫(振り返り)

・本時の学習のポイントや他の生徒の表現や考えを確認し、次の学習意欲につなげる。

(2) 道徳教育との関連【B(9)相互理解、寛容】

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び自らを高めていくこと。

(3) 人権が尊重される授業づくりの視点

・生徒一人一人の主体的な学習となるように、雰囲気づくりと活動内容を創意工夫する。

・ペア活動やグループ活動を通して、お互いに助け合い高め合う学習態度を身に付ける。

・教師から賞賛や励ましの言葉かけを適宜行い、生徒の学習意欲を喚起し自尊感情を高める。

・間違いを恐れず英語を話す雰囲気を醸成しながら、他者の発言や作品のよさに気付かせ、生徒同士でも称賛を行う。

4 本時の学習

(1) 目標

・疑問詞 who を用いて相手の好きな人物について尋ねたり、自分の好きな人物について、be 動詞や一般動詞を用いて詳しく紹介したりすることができる。【知識・技能】

・相手に自分の好きな人物について興味をもってもらうために、工夫しながら対話することができる。【思考・判断・表現】

(2) 展開(1/8)

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)	備考
導入	10分	<p>1 前時までの学習を振り返り、単元目標と本時のめあてをつかむ。</p> <p>① Greeting ② Review 先生紹介 ③ 単元目標と本時の学習のめあての確認</p> <p>【学習課題】 Tiffany 先生や小川先生に、自分の好きな人物を紹介してファンになってもらおう。</p> <p>【めあて】 Who を使ってたずねたり、自分の好きな人物について相手に興味をもってもらえるように紹介しよう。</p>	<p>○基本的な挨拶や ALT からの質問で授業を開始し、英語学習への意欲を高める。</p> <p>○本時の活動に生かすため、インタラクティブを通して前単元を振り返る。</p> <p>(「問い」を生み出す手立て等)</p> <p>○「単元のゴール」となる姿をわかりやすくイメージさせるために、ALT とやり取りを行い、生徒の理解度を見ながら学習課題や本時のめあてに導く。 (ALT : わかりやすく、やり取りを行う。)</p> <p>○誰をどのような表現を用いて紹介するかや、生徒自身が ALT と対話をしている姿をイメージさせ、学習意欲を高めさせる。 (ALT : 本時の学習活動への期待を示す。)</p>	電子黒板
展開	30分	<p>2 基本文を練習する。</p> <p>A: ① Who's your favorite person ? B: ② My favorite person is my grandmother. ③ She's a farmer. ④ She makes some vegetables. ⑤ I like her vegetables.</p> <p>3 紹介文のメモを作る。 ◇～の言い方がわかりません ◇紹介文は何文くらいがいいんですか</p> <p>4 対話活動を行う。 ①メモを参考にペアで対話を行う。 ◇ちょっと単純でした ◇対話が広がりました ◇質問されました ②対話が広がったり深まったりするためにはどんな工夫があるかを話し合う。 ◇質問する ◇内容を更に詳しくする ◇相手にわかるようにはっきりと話す ◇表情を豊かにして話す ③自分のメモに付け加えたり、相手が尋ねそうな部分に印をつけたりする。 ④2回目の対話を行う。</p> <p>【期待される学びの姿】 どのように紹介すれば興味をもってもらえるかや、どうすれば対話に広がりや深まりが出てくるかを考え、より集中して対話をしようとしている。</p> <p>⑤紹介文を書く。</p>	<p>(課題解決に向けた見通しを持つ手立て)</p> <p>○個人やペアで形態を変化させながら、基本文①～③を練習させる。(ALT : わかりやすくモデルリーディングを行う。)</p> <p>○対話を広げたり深めたりするために、付け加える文④⑤を考えさせる。(ALT : 文が出てこないときはヒントを与える。)</p> <p>(見方・考え方を働かせて課題解決に向かう方向付け)</p> <p>○相手に興味をもってもらうための話し方や内容(笑顔、はっきり話す、年齢、職業、好きなこと、趣味等を入れる)表現方法を考えさせる。(ALT : ヒントを与えたり助言したりする。)</p> <p>○ペアで対話をさせた後、対話が広がったり深まったりしたかを尋ねる。</p> <p>(個に応じた支援)</p> <p>○対話のアドバイスや支援を行う。 (ALT : スローラーナーを支援する。)</p> <p>(言語活動の設定及び設定の意図)</p> <p>○対話が広がったり深まったりするための方法について、教科書等を参考に、生徒自身に気付かせ実際の対話で実践させる。</p> <p>(課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)</p> <p>○対話をよりよくするための手がかりとなるようにメモに印をつける。</p> <p>○再度対話することで対話の広がりを促す。 (ALT : 対話を観察し、1回目より対話に広がりがでてきたペアなどを見つける)</p> <p>【具体的評価規準】観点【話すこと(やり取り)】</p> <p>○〈知識・技能〉(方法:ワークシート) 疑問詞 who を用いて相手の好きな人物について尋ねたり、自分の好きな人物について be 動詞や一般動詞を用いて詳しく紹介したりすることができる。</p> <p>○〈思考・判断・表現〉(方法:行動観察) 相手に自分の好きな人物について興味をもってもらうために、工夫しながら対話することができる。</p> <p>【到達していない児童への手立て】</p> <p>○モデルを示したり、キーワードを補足したりして活動を支援する。 ○対話の中で使った紹介文を書かせる。</p>	<p>模造紙 絵カード 電子黒板</p> <p>対話用メモ 用紙 職業名シート</p> <p>ワークシート</p>
終末	10分	<p>5 学習のまとめ、振り返りを行う。</p>	<p>○本時の学習を振り返らせる。 ○指導者それぞれから本時の活動の評価を述べる。 ○次回の予告をする。</p>	
		<p>【まとめ】 who を用いると誰であるかを尋ねることができる。尋ねられたことに対しては、is や三単現の動詞を使うと説明することができる。相手に興味をもってもらうためには、事実だけではなく、自分の気持ちを伝えることが大切である。</p>		

【板書計画】

Big Goal Tiffany先生や小川先生に、自分の好きな人物を紹介してファンになってもらおう。	Today's Goal : Whoを使ってたずねたり、自分の好きな人物について相手に興味をもってもらえるように紹介しよう。
対話工夫のポイント	基本文 A: Who's your favorite person ? B: My favorite person is my grandmother. She is a farmer. She makes some vegetables. I like her vegetables.
	生徒質問用 ワード等
	まとめ

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

電子黒板: 文法導入やパターンプラクティスでは写真や絵の提示をしたり、対話用のメモの取り方を示したりする。本文音読や読解において、デジタル教科書を活用する。

i-pad / タブレット: 単元終末のパフォーマンステストで、好きな人物を紹介するときに活用する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

○単元の終末では、少しずつ増やしていった対話文を生かし、ALTとパフォーマンステストを行う。

○熊本県学力調査課題克服問題に取り組む。

平成30年度

・大問5「主語の単数・複数に合わせて適切な be 動詞を選択する」

・大問8「第三者(単数)について情報を選び、対話の流れに合った説明文を追加する」